

ウェブニュース見出しの文末表現における日中翻訳

－ NHK を対象として－

李 正政

(広島大学大学院国際協力研究科教育文化専攻博士後期課程)

This study investigated on the tendency of Japanese-Chinese translation for the expression at the end of web's news headlines, using the samples of NHK website which is an official media owned by the Japanese government. The study focused on three types of expressions ending with Noun, Particle and Verb. The result showed that in the news headlines about 50 percent of sentence end expressions were appropriately translated into Chinese headlines, and the other were rewrote by using different verb or simply omitted. It is argued that Chinese headlines tend to emphasis on conveying results of news' contents, and often use a form of predicate wording.

0. はじめに

日本には、中国語に翻訳したニュースをウェブサイトで公開しているメディアがいくつかある。翻訳を通じて、中国の読者に適切な情報を伝達されているのかを検証するため、ウェブニュースの日中翻訳について考察する。その中に、ウェブニュース見出し（以下、「ニュース見出し」と略称）はニュースの内容を読み手に推測させる重要な手掛かりであるが、これまでその日中翻訳はさほど注目されていない。日本語のニュース見出しの文末表現は省略されることが多いが、それが中国語に翻訳する際にどのように扱われているのか、また、省略された文末表現が復元されているのか、といった問題を取り上げる。

本稿では、日本のメディア NHK（日本放送協会）の公式サイトから収集した日本語のニュース見出しの文末表現を分類し、それに対応する中国語のニュース見出し（訳文）との対照を通じて、上の問題点を明らかにすることを目的とする。

第1節では、研究資料を紹介する。第2節では、ニュース見出しの日中翻訳における表現形式について述べる。第3節では、「名詞止め」「助詞止め」「動詞止め」という三種類の日本語のニュース見出しについて、それぞれの翻訳特徴を考察する。第4節では、考察の結果をまとめる。

Li Zhengzheng, "Study on the Japanese-Chinese Translation for the Expression at the End of Web's News Headlines: A Case of NHK News Headlines," *Interpreting and Translation Studies*, No.16, 2016. Pages 21-41. © by the Japan Association for Interpreting and Translation Studies

1. 研究資料

日本のニュースメディアのウェブサイトはいくつかあるが、その中でニュース本文及び見出しの日本語原文と中国語訳文との間に完全な対応が認められるのはNHKだけである。NHKが運営している公式ニュースサイトは「NHK NEWS WEB」¹⁾であり、最新のニュースを日本語で24時間文字や映像を通じて配信している。それに対応する中国語ニュースは「NHK WORLD-Chinese」²⁾である。本稿では、資料としてNHKのニュース見出しを用いる。「NHK NEWS WEB」と「NHK WORLD-Chinese」から日本語のニュース見出しと、それに対応する中国語のニュース見出し114組が研究対象となるが、これらはすべて2015年4月14日から2015年9月28日の間に掲載されたものである。

2. ニュース見出しの表現形式

日本語のニュース見出しを翻訳し、中国語のニュース見出しを作成しようとするれば、その表現形式は中国語の規則に従うだけでなく、メディア側による翻訳の原則と制限も関わってくる。そして、その翻訳には、ニュース見出し全体の表現形式も関与してくる。そのため、日本語ニュース見出しの文末表現について、その日中翻訳を考察するには、あらかじめ見出し全体を取り上げ、原文の日本語のニュース見出しと訳文の中国語のニュース見出しの表現形式にどのような違いがあるのかを明らかにしておく必要がある。その際に注目するのは、見出しの段数と文字数である。

2.1 見出しの段数

日本語ニュース見出しの段数を資料に従い整理すると、表1のようになる。表1から、見出しの表現形式として、一段見出しから三段見出しまで三つの見出し形式を使用していることがわかる。このうち、二段見出しの使用率が一番高く、7割を超えている。一方、一段見出しと三段見出しの使用率はいずれも低く、それぞれ1割程度である。

表1 日本語ニュース見出しの段数

見出しの種類	例文	見出し数	割合
① 一段見出し	スポーツ庁初代長官に鈴木大地氏	13	11.40%
② 二段見出し	中国人の海外旅行先 日本が1位で全体の4割	86	75.44%
③ 三段見出し	中国 習近平国家主席 アメリカ訪問をスタート	15	13.16%
	合計	114	100%

日本語ニュース見出しは一段見出しから三段見出しまでであるが、中国語に翻訳すると、訳文の中国語ニュース見出しはすべて一段見出しで表されている。見出しの段数に見られる変化を表で示したものが、表2である。

表2 ニュース見出しの日中翻訳に見られる段数の変化

見出しの種類	例文	段数の変化
① 一段見出し	原文：スポーツ庁初代長官に鈴木大地氏 訳文：鈴木大地将出任体育厅长官	一段 ⇒ 一段
② 二段見出し	原文：中国人の海外旅行先 日本が1位で全体の4割 訳文：日本居中国人旅游目的地首位	二段 ⇒ 一段
③ 三段見出し	原文：中国 習近平国家主席 アメリカ訪問をスタート 訳文：习近平抵西雅图揭访美序幕	三段 ⇒ 一段

2.2 見出しの文字数

日本語のニュース見出しの文字数を整理したものが、図1である。統計に際しては、漢字のほかに、数字、英文字、記号もすべて1文字として数えてある。但し、段間の空白は字数に含めていない。

図1を見ると、日本語のニュース見出しの文字数は11～24文字までと幅がある。そのなかでも17～19文字の見出しが57例と資料の半分を占め、17文字の見出しは24例を占める。

一方、日本語のニュース見出しを中国語に翻訳すると、文字数に変化が見られ、図2のようになる。中国語のニュース見出しは、そのほとんどが11～14文字で構成され、109例を占める。そのうち、もっとも多いのは13文字の見出しであり、資料の半分を占める57例ある。11～14文字の見出し以外は5例にすぎない。

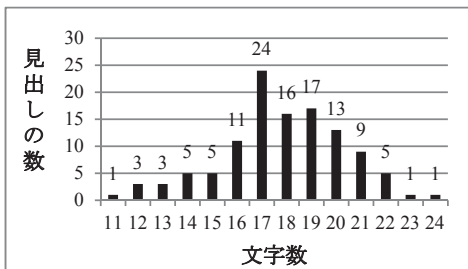


図1 日本語ニュース見出しの文字数

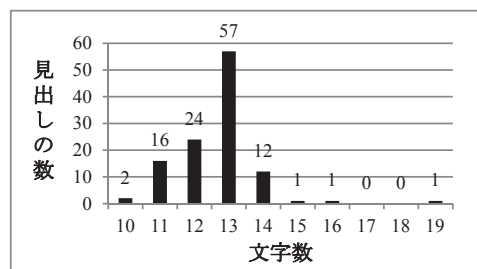


図2 中国語ニュース見出しの文字数

ニュース見出しを日本語から中国語に翻訳する際、見出しの段数が削減されるとともに、見出しの文字数も制限されるという特徴が認められる。この見出しの字数制限について、「NHK WORLD」中国語版の担当者に問い合わせたところ、次のような回答があった。

“首先，关于字数限制的问题，由于翻译好的新闻要登到网上，我们会注意控制标题的字数，让它不会中途换行，破坏页面美观。另外，翻译标题时，我们会注意提炼出

新闻最核心的部分，以最少的字数进行翻译。”

「翻訳された中国語ニュース見出しをウェブサイトに掲載するため、ウェブページの見た目を常にきれいに整えることに注意を払っている。途中改行をせずにすべて一行で表せるように、見出しの文字数をきちんとコントロールすることを工夫している。そして、見出しを翻訳する際には、ニュースの中で最も核心となる部分を抽出して、できる限り少ない文字数で表出するように心がけている。」

この回答に従うと、段数の削減または文字数の制限を実現するため、ニュース見出しの翻訳には、情報の濃縮、省略、または組み立て直しなど加工が施されていることになり、それが文末表現の翻訳にも影響を及ぼしていることが推測される。日本語のニュース見出しの文末表現が、その日中翻訳において見出し段数と文字数の制限を受けながら、どのように扱われているのかについて、次節で考察していく。

3. ニュース見出しの文末表現

日本語の見出しに関する先行研究を見ても、ニュース見出しをめぐる行われたものはわずかであり、その多くは新聞見出しを対象としたものである。日本語の新聞及びニュース見出しにおける研究の大きな特徴は文末表現（いわゆる、止め方）であり、寺川（1991）、田中（1998）、湯浅（2014）などの研究を挙げることができる。これらの先行研究は、新聞見出しの文末表現における分類方法が個々に多少異なっているが、「名詞止め」「助詞止め」及び「動詞止め」という三種類の文末表現については、ほぼ共通して言及されている。これらは、本稿で扱うNHKのニュース見出しにも認められる。

先行研究では、見出しの文末表現を論じるにあたって、「省略」という言い方がしばしばなされており、文末表現がニュース見出しの内容面に影響を与えていると考えられる。本稿では、この「省略」について、日本語のニュース見出しを作成する際に用いられた手段として、特定の形で止め、その後ろの表現を落とした表現と理解しておく。

日本語ニュース見出しを文末表現に基づいて分類し統計すると、表3になる。名詞止め、助詞止め、動詞止めを含む日本語ニュース見出しに注目し、それらを中国語訳文と対照しながら考察していく。

表3 日本語ニュース見出しの文末表現

類 型	見出し数	割 合
① 名詞止め	68	59.65%
② 助詞止め	19	16.67%
③ 動詞止め	20	17.54%
④ 引用 ³⁾	7	6.14%
合計	114	100.00%

3.1 名詞止め

日本語のニュース見出しの文末は名詞で終わるものが最も多く、68例ある。本稿では、見出しを終える名詞を漢語動名詞、連用形名詞、一般名詞といった三種に分けている。

3.1.1 漢語動名詞

例1：アジアナ機事故 韓国が調査官を派遣

この例1では、文末が「派遣」という2文字の漢語で止められているが、「する」を加えると、サ変動詞の「派遣する」になる。このような止め方を、寺川（1991:113）は、タイプ「Ⅲ 文から活用語尾を取ったもの」に属し、名詞と見ている。田中（1998:68）は、タイプ「⑤-c 動詞の連用形」に属し、動詞連用形として扱っている。また、湯浅（2014:17）は、タイプ「I b 見出し末に述部あり：漢語のみ」に入れている。さらに、野口（2002:100）は、名詞止めによる省略の一種と見て、「動詞「する」の省略」と名付けている。つまり、先行研究では、このような止め方を名詞または動詞連用形と見る場合もあれば、漢語と見る場合もある。

小林（2004:12）は、「派遣する」の「派遣」のように「サ変になり得る名詞」のことを動名詞と読んでいる。そして、動名詞は単独で主語や目的語としても使われるので、これまでは、名詞の下位類として扱われることが多かったと述べている。本稿では、小林（ibid.）の定義に従い、例1のような文末表現を漢語動名詞と呼び、このような見出しは名詞止めの見出しの一種と見なす。見出しを止めた漢語動名詞は、名詞の形になっているが、動詞の働きを持っていると見ることになる。

漢語動名詞で終わる見出しは43例あり、資料全体を占める割合は一番高い。主に「助詞＋二字漢語動名詞」と「漢語名詞＋漢語動名詞」という二つのタイプに分類される。

a) 「助詞＋二字漢語動名詞」のタイプ

このタイプの見出しは26例ある。二字漢語動名詞の前に用いられている助詞には「を」が最も多く、そのほかに「で」と「に」の使用も見られる。中国語への翻訳に際しては、日本語の二字漢語動名詞の意味を中国語の見出しにおいて2文字か1文字の動詞表現を用い訳したものが14例ある。

例2日：外相 在外公館にISテロ対策強化を指示

中：日本指示海外使领馆严防恐袭

例2を見ると、文末に現れた漢語動名詞「指示」は、中国語の見出しでは“指示”に

直訳されている。二字漢語動名詞には、意味と形態の両面で中国語の動詞表現と類似したものが少なくなく、その場合には中国語の2文字の動詞表現に対応させることができる。

しかし、実際の翻訳では、それにも関わらず、1文字の動詞表現や“就～V”構文⁴⁾の使用が認められる。

例3日：英BBC 北朝鮮向けのラジオ放送を計画

中：BBC 拟面向北朝鮮播出广播

例3では、「計画」を「～するつもりである、～しようとする」という意を示す“拟”で翻訳している。そのほかに、「実施」を“办”⁵⁾に、「派遣」を“派”⁶⁾に、「表明」を“称”⁷⁾といった1文字で表している例が認められる。これは、中国語の見出し文の簡潔性を配慮しているがためと考えられる。

例4日：日中韓 鳥インフルエンザ対策強化で連携

中：日中韓就防范禽流感等达协议

例4では、「連携」は互いに連絡を取り協力して物事を行うことを意味し、中国語に翻訳すると、「协作；合作」になるはずである。しかし、この例4では、文脈を考慮するために介詞の“就”を添加し、“就～达协议”という構文を用いることで、「～について、～という合意に達した」という意味になっている。中国語の“协议”という表現は、日本語の「連携」と意味的には一番近いが、ここに動詞の働きはなく、名詞のそれである。つまり、日本語の見出し文末の漢語動名詞は動詞の働きをしていますが、中国語の見出しでは必ずしも動詞表現で対応しているとは限らないのである。

見出し文末の漢語動名詞が中国語の見出しで訳出されていないことも少なくなく、12例ある。訳出されていない理由は三つある。一つ目の理由は、漢語動名詞が「合意」「確定」「承認」のような物事の結果が定まっていることを表す場合、その翻訳で重要なのは、物事の結果を直ちに伝えるというものである。例5では、中国語の見出しには「合意」に対応する表現はないが、「来月行うこと」を伝えるとともに、合意に至ったことを“将”⁸⁾で表している。この“将”は、これから物事が確実に行われる予定であることを示す。

例5日：南北離散家族の再会 来月行うことで合意

中：朝鲜半岛离散家属下月将重逢

二つ目の理由は、日本語の見出しを中国語に翻訳するとき、日本語見出しの前部の一段だけを訳し、後部の一段をすべて落としたことにある。例6を見ると、日本語見

出し後部の内容が中国語の見出しでは訳されていない。

例 6 日：日米韓外務次官級協議 3 か国の協力を確認
中：日美韩举行副外长级协商

三つ目の理由は、日本語の見出しを中国語に翻訳するとき、内容を完全に書き換えたことにある。例 7 では、中国語の見出し内容は日本語の見出しとまったく対応していない。このような例では、NHK のニュース翻訳者が言うように、見出しはニュースの中で最も核心となる部分から抽出したものを改めて付けたと思われる。

例 7 日：アフガニスタンで爆発 30 人以上死亡
中：ISIL 表示对银行前爆炸负责

b) 「漢語名詞＋漢語動名詞」のタイプ

例 8 日：4～6 月の GDP マイナス 1.2% 上方修正
中：日本上调4 至 6 月 GDP 统计值

例 9 日：中国への直接投資 12%減も減少幅縮小
中：日企 3 月对华投资减幅缩小

例 10 日：翁長知事 李首相に経済交流促進要望
中：冲绳知事望促进对华经济交流

例 11 日：チリ沖で大地震 沿岸で津波観測
中：智利大地震 海啸恐袭各地

このタイプは、助詞を省略して、例 8 の「上方修正」、例 9 の「減少幅縮小」、例 10 の「経済交流促進要望」のように、4 文字～8 文字の漢語だけを並べた表現形式を用いる。17 例あるが、例 8～例 10 の中国語の見出しに引いた下線のように、12 例が翻訳されている。2 文字の漢語動名詞で終わる見出しよりも、翻訳される割合は高い。そして、翻訳されていないのは、例 11 のように日本語の見出しの後部の内容を落としたものである。つまり、漢語の連用は文字数が多くなるにつれて、ニュース内容との関連性が緊密になり、中国語に訳出される可能性も高くなると思われる。

3.1.2 連用形名詞

西尾 (1961:63) は、動詞連用形から形成されたと考えられる名詞を連用形名詞と呼んでいる。また、岡村 (1995:73) は、動詞の連用形が単独で体言として自立するという現象を挙げている。例えば、「彼が走る」→「彼の走り」といった類のものである。このように、動詞の連用形が転成して名詞化したものは「連用形名詞」と名付けられ、しばしば議論の対象とされてきたと述べている。

例 12 日：阿蘇山で噴火発生 警戒レベル3に引き上げ

中：日本熊本县阿苏山喷发

本稿では、西尾 (ibid.) と岡村 (ibid.) の定義に従い、例 12 の文末に表れている「引き上げ」のように、動詞「引き上げる」の連用形から転成して名詞化した文末表現を「連用形名詞止め」と呼び、名詞止めにおける一種として取り扱う。

資料には、連体形名詞で終わる見出しは僅か 5 例しかない。漢語動名詞で終わる見出しの数に比べて少ない。それは、西尾 (ibid.) が指摘したように、連用形名詞には名詞としての用法に制限のあるものが少なくなく、しかも、動詞的な意味を持つ漢語動名詞の活躍により、連用形名詞は必要度があまり高くない。そのため、漢語動名詞の活躍する場で連用形名詞はあまり表に現れてこないと考えられる。

例 12 の「引き上げ」は「引き上げる」から転成してきたものであり、値段・比率・水準などを高くするという意味である。しかし、翻訳の際には、後ろの一段、「警戒レベル3に引き上げ」という内容が全部消され、「引き上げ」の意味も落とされている。

例 13 日：米 FRB 利上げを見送り

中：美联储会议决定暂不加息

例 14 日：難民受け入れ義務化合意見送り

中：欧盟召开紧急会议应对难民潮

例 13 には、日本語の見出しの文末に「見送り」という連用形名詞がある。中国語の見出しは、実行を差し控えて様子を見るという意味を表す“決定暂不”と翻訳している。しかし、例 13 とは異なり、例 14 では見出しの内容全体が変化し、「見送り」の意味は中国語の見出しに表れていない。

例 15 日：中国 習近平国家主席 アメリカ訪問をスタート

中：习近平抵西雅图揭访美序幕

例 15 の日本語見出しは「スタート」という形で終わっているが、動詞「スタートする」から転成してきたものと思われ、「始める」の意味を表し、動詞の働きをしている。中国語の翻訳を見ると、「始める」の意味を中国語の“开始”という表現に直訳しておらず、“揭～序幕”というレトリックを用い訳している。

3.1.3 一般名詞

本稿では、漢語動名詞と連用形名詞以外に、見出しの文末に名詞の形で表れているものをすべて一般名詞として見る。20 例あるが、漢語の名詞が多い。「～する」の形で使えないので、一般名詞として扱う。

a) 人物名や地名に関する表現

例 16 日：スポーツ庁初代長官に鈴木大地氏

(本文：鈴木大地氏を起用する人事を決めました。)

中：鈴木大地将出任体育庁長官

例 17 日：災害臨時 FM ラジオ開局へ 茨城・常総

中：常総市開設 FM 广播服务灾民

例 16 では、日本語の見出しは人物名の「鈴木大地氏」で終わっているが、それに対応するニュース本文は、「鈴木大地氏を起用する人事を決めました」という表現である。野口 (ibid.) が述べているように、名詞の後ろに省略されるのは「助動詞か (助詞) + 動詞」である。しかし、日本語の見出し表現では、後ろに述語が現れなくても、文脈と言語知識によって、読者は見出しが伝える情報を容易に理解することができる。しかし、中国語への翻訳に際しては、動詞表現、いわゆる述語を表出しないと、中国語の見出しの文脈は成り立たない。そのため、動詞表現の“将出任”を補充している。例 17 では、地名が見出しの文末に現れている。このようにニュースの発生地を明示する表現を見出しの文末に付けることが日本語の見出しにはよく認められる。中国語に翻訳する際には、地名、すなわちニュースの発生地を示す表現を文頭に持っていく、中国語の表現に相応しい表し方へと変えている。

b) 数値に関する表現

例 18 日：NHK 世論調査 憲法改正「必要ある」33%

(本文：「改正する必要がある」が 33%でした。)

中：輿論調査：有必要修宪占33%

例 19 日：中国人の海外旅行先 日本が 1 位で全体の 4 割

(本文：日本と答えた人が ... 全体の 4 割に上った。)

中：日本居中国人旅游目的地首位

例 18 では、それに対応するニュース本文を見ると、数値の後が「でした」で終わり、丁寧の意をこめ、指定の意を表している。中国語訳では「33%」という数値は訳出しているが、「でした」という丁寧の意に対応する表現はない。そして、日本語のニュース見出しには名詞表現だけを並べており、助詞の使用が見られないことが多いが、中国語に翻訳する際には文脈を合わせるために、適切な表現を入れて、それらの名詞表現をつなげている。例 18 では、日本語の「占める」の意味を表す詞“占”を補充している。

例 19 に対応するニュース本文では、「全体の 4 割」の後ろに「に上った」という結果を示す表現がある。しかし、翻訳では「全体の 4 割」という表現は訳出されていない。それは、見出しにある「日本が 1 位で」という表現だけで、日本が中国人の海外

旅行先において重要な地位に占めていることを十分に伝えることができ、訳文の長さにも配慮したことが省略の要因として考えられる。

c) 推測の意を表す表現

例 20 日：政府と沖縄県 協議継続も対立深まる見通し

中：沖縄基地搬遷問題分歧难消

例 21 日：バンコク爆弾テロで逮捕状 首謀者の可能性

中：泰国发逮捕令追捕爆炸案主谋

例 20 の日本語見出しでは「見通し」で終わり、予測の意を表す表現と見なしてもよいが、田中 (ibid.:69) が指摘しているように、名詞止めの見出しはその後ろにモダリティの形式は現れにくい。しかし、中国語の見出しでは、その予測の意を表せずに「断定」の言い方で扱っている。例 21 では、文末の名詞は「可能性」という不確定な表現となっているが、中国語の見出しでは、例 20 と同じように不確定な表現はなく、「断定」の言い方である。日本語の見出し文末において、予測や可能の意を表す場合、中国語への翻訳ではそれらの意味を落とされており、「断定」の言い方にする傾向があると言えるであろう。

もちろん、見出し文末に現れた一般名詞は、ここで述べたもの以外にも様々な表現があり、規則性をまとめることはできない。そのため、これ以上は述べないことにする。

3.1.4 まとめ

ここまで名詞止めを分析してきた。その日中翻訳をまとめると、表 4 のようになる。

表 4 名詞止めのニュース見出しの翻訳特徴

名詞の種類	翻訳特徴
①漢語動名詞	a. 意味が類似する 1 文字か 2 文字の動詞を用いて翻訳されている。
	b. “将” (動作や状況が間もなく起こることを示す) という表現が多用される。
	c. “就～V” 構文の使用が認められる。
	d. 「漢語名詞+漢語動名詞」の場合は翻訳される可能性が高い。 (要因:文字数が多くなるにつれて、ニュース内容との関連性も緊密になる。)
②連用形名詞	e. 訳出度が低い。(要因:連用形名詞の用法上の制限と必要度に関わる。)
③一般名詞	f. 人物名の後に付く述語を補充することや、地名を文頭に持つてくることなど、文脈に工夫が認められる。
	g. 「見通し」や「可能性」など予測や可能の意を表す名詞表現が中国語訳に現れることはなく、断定の言い方になる傾向がある。

そのほかにも、見出しの内容の省略または書き換えにより、中国語訳に文末の名詞が訳出されないことがある。

3.2 助詞止め

助詞止めの見出しについて、森山（2009:16-19）は、未来時制が空間的比喻によって「へ」で表示されること、また他動詞表現の動詞省略で「を」により要求表現を表すなどといった形が見られることが述べられている。

その特徴を詳述したのが、野田（2006:434-442）である。見出し末の「が」は、実のところ見出し末には現れにくく、その後ろに存在や出現を表す述語を省略したものが多く、見出し末の「を」は、話し手・書き手の判断が現れうる箇所に多く見られる。そして、省略されている述語部分は行為実現の要求を表す例がとても多い。見出し末の「に」は、変化の結果を表すものが多く、そのほかに物理的移動の到達点や動きの相手、起因、時などを表すものもある。見出し末の「へ」の前に来る言葉で最も多いのは、「する」が付加されると、サ変動詞として働く動名詞である。「動名詞+へ」によって、事態が実現に向かって動き始めたことが示される。そして、見出し末の「へ」は事態の実現が未来であることを表すという点ではテンスを補っており、事態が実現に向かって動き始め、進行していることを表すという点では、アスペクトの意味も補う働きがあると言える。見出し末の「も」は、比較的が多いのは意見の存在を表すものである。そして、動名詞に「も」がつくと、望ましくない事態が起きる可能性があることが示される。

資料には、日本語見出しの文末が助詞で終わるものが19例ある。その文末に現れた助詞として、「へ」、「に」、「を」、「か」及び「も」がある。そのうち「へ」は10例ともっとも多く、次に「に」と「を」が3例、「か」が2例、そして「も」で終わるものは僅か1例にすぎない。

3.2.1 「へ」

助詞「へ」で終わる日本語の見出しの場合、それに対応するニュース本文に「へ」の使用はほとんど認められない。その代わりに、「方針」・「計画」・「見通し」・「～ことになりました」といった表現が用いられている。そのため、日本語の見出し文末に現れた助詞「へ」は、杉村（2004:57-58）が述べているように、未来志向的な用法と言える。

例 22 日：汚染水問題解決に向け 地下水浄化し放出へ

（本文：…下水をくみ上げ浄化して海に放出する計画です。）

中：福島将排放经净化核污水

（本文：东京电力公司制定计划…抽取地下水，进行净化处理后排放大海。）

日本語の見出し文末の「へ」は、多くの場合、例 22 のように中国語の見出しでは

“将”で翻訳される。中国語の“将”は動作や状況が間もなく起ころうとしていることを表す。その他、“拟”、“计划”に翻訳する場合もある。これらの翻訳は、「へ」の意味を表していると言える。

例 23 日：台湾 日本食品の輸入規制強化へ
中：台湾加强日本食品进口限制

しかし、文末「へ」の意味は中国語の見出しで必ずしも表出されるわけではない。例 23 を見ると、中国語の動詞は“加强”だけであるが、この例の場合“将”などの表現があってもなくても、見出し全体の意味に影響はない。そのため、“将”がない。

例 24 日：G7 外相会合開幕 テロ対策強化など協議へ
中：G7 外长会议在德国开幕

また、日本語見出しを中国語に翻訳する際にも、後ろの一段全体が省略される場合、中国語の見出しでは「へ」の意味が表出されないことがある。

3.2.2 「に」

格助詞の「に」は動作・作用の場所、帰着点、方向、結果、目的、対象、原因及び資格など、多様な用法で用いられる。しかし、日本語の見出し文末に現れた「に」がそのままニュース本文の表現として用いられるわけではない。

例 25 日：台湾総統選 野党は蔡英文主席を候補に
(本文：民進党はトップの蔡英文主席を…公認候補として選出しました。)
中：台民进党提名蔡英文参选总统
(本文：民进党正式提名党主席蔡英文参加明年1月举行的总统选举。)

例 25 では、日本語の見出し文末の「に」は資格を表しているが、ニュース本文では連語の「として」に入れ替えられるとともに、ニュース本文の後ろにある「選出しました」という動詞を落としている。しかし、中国語に翻訳する際には、動詞の意味を補充し、“提名”と訳している。

例 26 日：安保法案 与野党の攻防 今週最大のヤマ場へ
(本文：…与野党の攻防は今週、最大の山場を迎えます。)
中：安保审议本周迎来最终较量
(本文：本周，朝野之间将围绕安保相关法案展开最激烈的较量。)

そのほかにも、見出し文末の「に」に対応するニュース本文の表現が「～を迎えます」のような例 26 がある。この「に」は「動作・作用の到達点」を表しているが、中国語の見出しは、“迎來”になっている。

3.2.3 「を」

「を」は格助詞として対象を示したり、そこから離れる所・人を示したり、動作の移動する場所・持続する時間を示したりする。日本語のニュース見出し文末に現れた「を」は対象を示しており、その後ろに動詞等は現れない。

- 例 27 日：安倍首相 被災者の救命・救助に万全を
 （本文：…被災者の救命・救助などに万全を期すよう指示しました。）
 中：安倍要求政府全力投入救災
 （本文：安倍要求政府继续团结一心，竭尽全力拯救灾民…）

例 27 では、ニュース本文では「を」の後ろに「期す」と「指示する」と二つの動詞が付いているが、中国語の見出しでもその二つの動詞は現れている。それは、中国語の見出しの文脈に合わせるために、中国語に翻訳する際、「を」の後ろに付く日本語の動詞を補充しているからである。

- 例 28 日：宮城県に大雨特別警報 最大級の警戒を
 （本文：気象庁は…最大級の警戒を呼びかけています。）
 中：気象庁：继续对灾害保持警惕
 （本文：气象厅…呼吁采取最高级别的警戒措施。）

そのほかにも、助詞の後ろの動詞を落とした例として、例 28 がある。例 28 では、「呼びかける」という表現に対応する中国語の“呼吁”を中国語の見出しには表さず、記号「:」を用いている。その後ろが呼びかける内容となっているので、記号「:」の使用は“呼吁”と同じ意味に理解することができる。

ただし、日本語の見出しを中国語に翻訳する際、内容面を完全に変化させるとなった場合、「を」の後ろに付く動詞を表さないこともある。次の例 29 がそうである。

- 例 29 日：中国国家主席 訪米で経済協力促進を
 中：习近平会见美国工商领袖

3.2.4 「か」

「か」で終わる日本語のニュース見出しは 2 例である。

例 30 日：アジアナ機 ありえない低い高度で施設に接触か
中：韩亚客机与机场设施相碰受损

例 31 日：中国の外貨準備高大幅減 当局介入の結果か
(本文：…金融当局が介入に動いた結果ではないかと指摘されています。)
中：中国外汇储备减额创单月新高

例 30 はニュース本文では「か」は使われていないが、本文から、この「か」が副助詞として、不確かな断定を表していることが分かる。この「か」は、ニュースの作成者が見出しを付ける際、ニュースの内容に基づいて加えたものである可能性がある。そのため、翻訳に際しては、日本語のニュース内容に準じて、中国語の見出しで訳出されていない。

例 31 では、日本語の見出しの「か」は本文の「～ではないか」に対応するものであり、終助詞として反語の意を表している。しかし、中国語に翻訳する際、日本語見出しの後ろの一段全体を省略したため、「か」の意味は中国語の見出しに表されていない。

3.2.5 「も」

「も」で終わる日本語のニュース見出しは、次の例 32 だけである。

例 32 日：チリ 巨大地震で 11 人死亡 津波被害も
中：智利地震已造成 11 人遇难

例 32 の「も」はニュース本文には対応するものがない。ニュース全体の文脈に基づいて、ここの「も」は同類の事柄を累加して取り上げるという意味を持つ。しかし、翻訳に際しては、見出しの内容の省略により、「津波被害もある」という内容は表されていない。

3.2.6 まとめ

助詞で終わる日本語の見出しの場合、それに対応するニュース本文とは異なる助詞で表されることがある。それぞれの翻訳特徴は、表 5 のようにまとめることができる。

表 5 助詞止めのニュース見出しの翻訳特徴

本文との対応状況	助詞	翻訳特徴
①同一助詞で表される見出し	を	「を」の後ろに付く動詞は、通例、見出しの文末には現れないが、中国語訳では文脈に適切な動詞が補充される。
②異なる助詞で表される見出し	へ	ニュース本文の表現に基づいて、助詞の意味を判断し、中国語に訳出している。
	に	
	か	中国語のニュース見出しに助詞の意味は表されていない。(要因：助詞の意味が明確されていないためである。)
	も	

その一方で、翻訳の際に内容面の省略が行われたため、助詞が持つ意味及び助詞の後ろに付く表現の意味が中国語の見出しで表出されないことも多々ある。

3.3 動詞止め

動詞で終わる日本語のニュース見出しは 20 例である。そのほとんどは動詞のル形で終わるものであり、19 例ある。そのほか、否定を表す動詞のズ形で終わるものが 1 例ある。田中 (ibid.) は動詞止めの見出しについて、テンスやアスペクトは明示されないのが普通であり、過去も現在も未来も、すべて動詞のル形の表記となっている。そして、動詞の否定の場合は「ズ」が用いられると述べている。さらに、見出し文末で動詞のル形が多用されることについて、野口 (ibid.:116-119) は、見出しには、臨場感を高め、読者を記事の内容に引き込むために、すでに過去となった出来事を報道するのに現在形を使う場合があると指摘し、「過去」を表す動詞の「現在形」を「劇的現在」と呼んでいる。

例 33 日：ミャンマー少数民族問題担当 日本の支援求める

(本文：…難民の帰還などに向けた日本の継続的な支援を求めました。)

例 34 日：TPP 日米閣僚級協議 東京で始まる

(本文：…日米の閣僚級協議が東京で行われています / 行っています。)

動詞止めの日本語ニュース見出しの特徴としては、ニュース見出しに現れた動詞のル形と、ニュース本文に現れた動詞の形式とが対応していないことが挙げられる。例えば、例 33 では、動詞の「求める」で止めているが、ニュース本文を見るとそれに対応する文は「理解を求めました」「支援を求めました」などであり、タ形の使用が見られる。また、例 34 では、「始まる」に対応するニュース本文の表現は「始まっています」や「行われています」「行っています」などであり、動詞のテイル形の使用が見られる。これは寺川 (ibid.:126) が述べているように、見出しの文法は短さを求め、同じ意味を表せるなら、タ形及びテイル形より短いル形を使うからである。日本語のニュー

ス見出しがテンスとアスペクトを明示していないと言われている理由は、まさにこの点である。

動詞のル形で終わる見出しを見ると、その文末には「求める」「始まる」「続く」「終わる」「示す」「強まる」「目指す」「述べ合う」などの動詞が現れている。それらを中国語に翻訳する際、その扱いは主として三種類に分けられる。

- ① 日本語の動詞の意味をそのまま対応させ、中国語の見出しに表出させる。
- ② 日本語の動詞の意味を中国語の見出しに表出させてはいるが、意味に「ずれ」が見られる。
- ③ 日本語の動詞の意味との対応がなく、中国語の見出しに表出されていない。

まず、①日本語の動詞の意味が表出される見出しであるが、通例、日本語の見出しに現れた動詞を中国語の見出しで1文字か2文字で翻訳している。

例 35 日：IAEA で日本原発再稼働に理解求める

中：日本望各方理解重启核电方针

例 36 日：日朝首脳会談から 13 年 確実な帰国を求める

中：朝承认绑架已 13 年家属盼亲归

例 37 日：米長官 中国のサイバー攻撃に懸念示す

中：美高官指中国仍实施网络攻击

例 35、例 36 のように、日本語の「求める」を中国語に翻訳する際、ニュース本文では“希望”、“要求”、“敦请”となっているが、見出しでは、“望”、“盼”といった1文字で表されている。また、例 37 のように、「示す」を中国語の見出しでは“指”に翻訳している。しかし、このように1文字で表しているのは、動詞に対する制限があるためと考えられる。2文字で表されている見出しが例 38 と例 39 である。

例 38 日：川内原発 2 号機 燃料を入れる作業終わる

中：川内核电 2 号机燃料放置完毕

例 39 日：尖閣沖の排他的経済水域 中国調査船の活動続く

中：中国调查船持续在尖阁活动

例 40 日：国会前 夜も法案反対の訴え続く

中：反安保民众继续举行抗议集会

例 38 では、見出しの文末に現れた動詞の「終わる」が中国語のニュース見出しで“完毕”に翻訳されている。例 39 の「続く」は、ニュース本文では常に「訴えや活動や事態などが続いている」といったことを示唆しているが、それに対応する中国語のニュース見出し及び本文では、“持续”が使われている。

その一方で、日本語のニュース見出しの「求める」には、中国語のニュース見出し

を見ると、例 35、例 36 のように、例により“望”、“盼”と異なる中国語訳も認められる。「続く」に対応する中国語訳を見ても、例 39 の“持续”のほかにも、例 40 の“继续”も見いだせる。要するに、日本語の見出しに用いた動詞とは異なり、中国語の見出しにはそれに対応した様々な訳語が使われているのである。

次に、②日本語の動詞の意味を中国語の見出しに表出しつつも、少し意味に「ずれ」が見られる見出しを見る。これは、動詞「始まる」や「開かれる」で終わる見出しの翻訳に認められるものである。「始まる」はニュースでは「作業や集会などが始まりました」という意味を表しており、中国語の“开始～”に対応するが、実際には、“开始”のほかにも例 41 のように“拉开帷幕”などの表現が使われている。

例 41 日：「東京ゲームショウ」始まる
中：2015 年东京电玩展拉开帷幕

そして、「始まる」は単なる本文の「始まりました」から抽出される何らかの物事が開始することを意味することに加え、「行う」という意味も含んでいる。このような場合、「開始する」(开始)より「行う」(举行)というニュアンスの方が強い。

例 42 日：安保法案 国会前で反対集会始まる
(本文：…午後 6 時半から集会が始まっています / 集会も始まりました。)
中：日民众在国会前举行抗议集会
(本文：…从今晚 (16 日) 6 点半开始举行抗议集会 / 开始拉开了帷幕。)

例えば、例 42 のように、中国語のニュース本文では、“开始举行”という表現を使っている。しかし、ニュース見出しを中国語に翻訳する際には、「午後 6 時半から」という具体的な開始時間を省略したこともあり、“开始”を入れず、“举行”という表現で翻訳されている。

③日本語の動詞の意味を中国語の見出しに表出していないものについては、その表出されない理由として主に四つのことが考えられる。

一つ目の理由としては、見出しの簡潔性を保つことが挙げられる。例 43 のように、日本語の見出し文末の内容を一部分省略することで、文末の動詞は表出されていない。

例 43 日：茨城 常総 不明 15 人の搜索と救助続く
中：日本常总市仍有 15 人下落不明

二つ目の理由としては、見出しの表す意味が推測できることが挙げられる。例 44 では、ニュース本文では「作業が始まりました」を“开始…装填…”に翻訳し、動詞を二つ並べている。しかし、中国語の見出しでは動詞“装填”と全体の文脈によって「始

まる」の意を推測できるため、「始まる」に対応する表現はない。

例 44 日：川内原発 2 号機 燃料入れる作業始まる

(本文：…11 日午後から、原子炉に燃料を入れる作業が始まりました。)

中：川内核电站 2 号机组装填燃料

(本文：…川内核电站的 2 号机组从今天下午起开始向反应堆装填核燃料。)

三つ目の理由としては、ニュースの読者が変わることで、ニュースの核心的情報を抽出し、必要でない見出しの内容を省略したことが挙げられる。例 45 では、日本語の見出しにある「日本の支援求める」という内容が中国語の見出しには無い。日本語のニュースは日本人の読者を中心としたものであり、見出しは日本との関連性を強調している。しかし、読者が中国人に変わること、見出しは、ニュースの内容に基づき、中国人読者にとって重要なかつ核心的なものへと変容している。

例 45 日：ミャンマー少数民族問題担当 日本の支援求める

中：緬政府将继续与少数民族对话

四つ目の理由としては、日本語の見出しを中国語に翻訳する際、内容を完全に变化させたことが挙げられる。例えば、例 46 がそうである。

例 46 日：南アフリカ 移民の店への襲撃相次ぐ

中：南非排外骚乱令国际担忧

最後に、否定を表す動詞の「ズ」形で終わる見出しについて述べる。例 47 では、日本語見出しの文末では「行われず」を用い、本文では「行われませんでした」という表現となっている。翻訳した中国語のニュース本文では、“计划落空”である。中国語の見出しには内容の変化が生じている。

例 47 日：安保法案 参院特別委 総括質疑行われず

(本文：…総括質疑の開催を目指しましたが、…反対で行われませんでした。)

中：朝野继续就安保法案展开攻防

(本文：…举行总结性质询答辨，但由于…强烈抵制，执政党的计划落空。)

以上の例から、動詞止めのニュース見出しについて、日中翻訳の過程に見られる特徴は、表 6 のようにまとめることができる。

表 6 動詞止めのニュース見出しの翻訳特徴

① 中国語の見出しは文脈を成り立たせるため、基本的に動詞の表現を入れる。
② 通例 1 文字か 2 文字の中国語の動詞で表出している。
③ 日本語の動詞表現に比べ、中国語の見出しにはそれに対応した意味で様々な訳語を用いる。
④ 日本語の動詞の意味が中国語の見出しで表出されていないものもある。 (要因：中国語の動詞の代替性や見出し内容の変化や、または、見出し文の簡潔さを保つために、見出し内容を一部分省略させたためである。)

4. おわりに

以上の考察から、日本語のニュース見出しにおける名詞止め、助詞止め、動詞止めといった文末表現が中国語に翻訳する際にどのように扱われているのかが、明らかになった。そして、文末表現による述部の省略が中国語のニュース見出しで復元されているか否かについて、考察の結果は表 7 のようになる。

表 7 に従うと、日本語のニュース見出しを中国語に翻訳する際には、その文末表現が翻訳または復元をされているものは考察資料全体の 5 割程度しかないことがわかった。そのほかは、表現の書き換え、見出しの一部省略、或いは見出しの書き直しが行われていることにより、ニュース見出しの中国語訳では復元はされていない。

これは、一つの要因として、ニュースの翻訳者が読者に強い印象を与えることを目的に、段数及び文字数の制約など見出しの作成規則と、中国語の表現方式とを併せて配慮し、そこに編集が加えられたためと考えられる。

表 7 文末表現による述部の省略に関する復元状況

文末表現	総数	類型	各類型の数	訳出の数	未訳出の数
名詞止め	68	漢語動名詞	43	26	17
		連用形名詞	5	2	3
		一般名詞	20	6	14
助詞止め	19	へ	10	6	4
		に	3	2	1
		を	3	2	1
		か	2	0	2
		も	1	0	1
動詞止め	20		20	11	9
合計			107	55	52
割合			100.00%	51.40%	48.60%

もう一つの要因としては、見出しの文末表現そのものの翻訳が関与しているだけでなく、見出しの全体への翻訳にも関わっていると思われる。見出しの全体への翻訳では、表現の補い、書き換えなど内容面の編集が認められる。

内容面で編集が行われたのは、類型、言語外および情報といった三つの問題から影響を受けているためと考えられる。まずは、類型の問題として、中国語の構文には動詞が欠かせないことや語順などが挙げられる。次に、政治に関わるニュースでは読者の容認度を配慮し、緩やかな表現へと変えるという言語外の問題が示唆される。また、情報の問題であるが、日本語のニュースは連続的に更新しているが、そのすべてが中国語に翻訳されているわけではない。そのため、同じ話題に関わる情報を日本語のニュース見出しでは一度掲載した場合、その後は旧情報と見なし省略している。しかし、中国語のニュース見出しではニュースの背景を提示するため、新情報として新たに補う必要がある。日本語のニュース見出しの文末表現がそれほど中国語に翻訳されていない理由は、まさにこれらの要因が関わっていると思われる。

このように翻訳された中国語のニュース見出しは、中国メディアが掲載した一般的な中国語ニュース見出しと比べると、どのような違いがあるのか、その対照研究を今後の課題としたい。

.....
【著者紹介】

李 正政 (リ セイセイ / Li Zhengzheng)。広島大学大学院国際協力研究科教育文化専攻博士後期課程在学中。談話分析の視点に基づき、日中ニュースメディアのウェブニュースについて、中日・日中翻訳研究に取り組んでいる。連絡先: lizhengzheng@hiroshima-u.ac.jp。
.....

【注】

- 1) 「NHK NEWS WEB」の URL: <http://www3.nhk.or.jp/news/index.html>
- 2) 「NHK WORLD-Chinese」の URL: <http://www3.nhk.or.jp/nhkworld/zh/>
- 3) 日本語のニュース見出しには「名詞止め」「助詞止め」及び「動詞止め」のほかに、ニュース内容に関わる人物や機関の発言で終わる場合がある。これらの場合、通常、発言の内容はカギ括弧「」で囲む形で表されている。中国語に翻訳する際、カギ括弧内の内容には特別な対応が見られるため、本稿では、これを「引用」と呼び、分析対象としていない。
- 4) 中国語の“就”はここでは介詞として動作の対象や範囲を示す。「～について」、「～に基づいて」の用法に相当する。
- 5) 中国語の“办”は「する、やる；処理する；取り扱う；さばく」の意味を示す。
- 6) 中国語の“派”は「派遣する；任命する；割り当てる」の意味を示す。

- 7) 中国語の“称”は「言う、述べる」の意味を示す。
- 8) 中国語の“将”は動作や状況が間もなく起ころうとしていることを表す。
- 9) 中国語の“占”は「占める、ある状況にある」の意味を表す。中国語の表現において、一定の割合を示す際によく使われている表現である。

【引用文献】

- 小林英樹 (2004) 『現代日本語の漢語動名詞の研究』 ひつじ書房
- 森山卓郎 (2009) 「新聞見出しの文法・序論」『日中言語研究と日本語教育』 第2号 :13-20. 好文出版
- 西尾寅弥 (1961) 「動詞連用形の名詞化に関する一考察」『国語学』 第43号 :60-81. 国語学会
- 野口崇子 (2002) 「『見出し』の“文法” — 解説への手引きと諸問題 —」『講座日本語教育』 第38号 :94-124. 早稲田大学日本語研究教育センター
- 野田春美 (2006) 「新聞の見出し末における格助詞・とりたて助詞の特徴」上田功・野田尚史 (2006) 『言外と言内の交流分野 小泉保博士傘寿記念論文集』 (pp.433-443) 大学書林
- 岡村正章 (1995) 「『典型的な動詞連用形名詞』に関する一考察」『上智大学国文学論集』 第28号 :73-89. 上智大学
- 杉村泰 (2004) 「格助詞『へ』に見る近未来都市 (都市と文化)」『言語文化研究叢書』 第3号 :49-64. 名古屋大学大学院国際言語文化研究科
- 田中哲哉 (1998) 「新聞の見出しの文法的特徴と機能」『龍谷大学国際センター研究年報』 第7号 :67-78.
- 寺川みち子 (1991) 「新聞見出しに見る装定と述定」田島毓堂、丹羽一彌編 (1992) 『日本語論究3: 現代日本語の研究』 (pp.109-128) 和泉書院
- 湯浅千映子 (2014) 「ネットのニュース記事における見出しの機能: Yahoo トピックスを用いて」『早稲田日本語研究』 第23号 :13-23. 早稲田大学日本語学会

